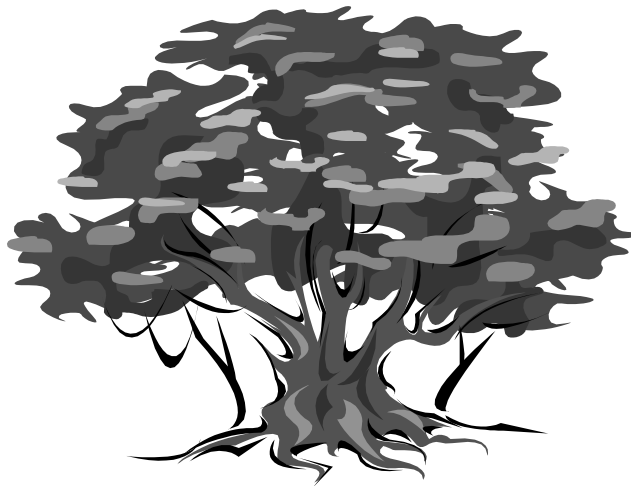


宮脇 昭×リチャード・ポット

「命と文化と自然を守る」

生物の一員であり、生態系の消費者の立場にあるわれわれ人間が、生存の基盤、文化の母胎である“生きた自然”を守り、地域を発展させるためにどのような取り組みが必要とされるのか、われわれ人間にできることはなにか。

そして、首都圏における広域的な水と緑のネットワークの実現に向けて、そのひとつの拠点となりうる三浦半島をはじめ地域レベルのネットワークを構築し、自然と人間のエコロジカルな永続的關係を築いていくために必要なことは一。



植生生態学の大家である宮脇昭氏(国際生態学センター研究所所長)、リチャード・ポット氏(ハノーバー大学教授)の講演および対談を通して、地に足のついた地域からの視点で、どのように地球環境問題に取り組んでいくのかという課題を論議します。

日 時 2004年7月10日(土)
13:30~16:30

会 場 湘南国際村センター
国際会議場(150名)

※往復はがきにて事前申込み(詳しくは裏面)。
応募者多数の場合は抽選。

参加費 1000円
(『三浦半島の植生ガイド』CD-ROM付)

＜プログラム＞

- ◆13:00 開 場
- ◆13:30 あいさつ
- ◆13:40~14:30 講 演 I (リチャード・ポット氏)
「都市における自然の重要性—緑と海と川と—」
- ◆14:30~15:20 講 演 II (宮脇 昭氏)
「命と文化を守る緑—水と緑のネットワークの創造へ—」
- ◆15:40~16:30 対 談
「命と文化と自然を守る」

主 催

湘南国際村開村10周年事業実行委員会
財団法人 国際生態学センター(JISE)
財団法人 かながわ学術研究交流財団(K-FACE)

<講師プロフィール>



宮脇 昭 Akira Miyawaki

(財団法人国際生態学センター研究所所長)

1929年岡山県生まれ。52年広島文理科大学生物学科卒業。西ドイツ植生図研究所研究員。そこでまとめた論文で広島大学より理学博士号取得。73年横浜国立大学教授。85年同大学環境科学研究センター長兼任。93年同大学名誉教授。研究のかたわら通産省エネルギー庁環境審査会顧問、国際植生学会(IAVS)副会長などを務める。96年より国際生態学会(INTECOL)会長。日本における植生の群落体系の確立と植生図化を行い、『日本植生誌』(全10巻 至文堂)をまとめ、90年度朝日賞を受賞。92年紫綬褒章、95年チルクセン賞(ドイツ)、96年日経地球環境技術大賞。

東南アジア、とくにタイ、インドネシアの植生学的研究、国内600カ所での「ふるさとの森」再生、マレーシアの熱帯雨林、アマゾンの低地熱帯林、チリのノファグス(南極ブナ林)再生など精力的に活躍。

リチャード・ポット Richard Pott

(ハノーバー大学植物社会学研究所教授)

1951年ドイツ・テクレンブルグ生まれ。潜在植生理論の生みの親、ラインホルト・チュクセン教授のもとで、植物社会学を学ぶ。専門は高山植生、若くしてその才能を認められ、ドイツにおける植生研究をリードし、ハノーバー大学の副学長を歴任。

現在は「自然資源の有効活用による都市の活性化」にも参画し、自然保護の思想から積極的に人間と自然との共生の方法を提案している。



<お申し込み>

往復ハガキ(1枚で2人まで)に全員の郵便番号、住所、TELを明記の上、6月25日(必着)までに下記送付先にお送りください。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。参加費は当日払いとなっています。なお抽選の結果発表につきましては、当選の如何に関わらずハガキにてお知らせいたします。

〒240 0198

三浦郡葉山町上山口 1560 39 湘南国際村センター内

(財)かながわ学術研究交流財団「アカデミア」係

問い合わせ:046 855 1821(清水)



<会場までの交通>

JR 逗子駅前1番乗り場より16系統「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター前」下車。所要時間約30分。料金340円。

京急汐入駅前2番乗り場より「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター前」下車。所要時間30分。料金370円。

京急バス時刻表ホームページ: <http://www.keikyu.co.jp/cgi-bin/bustimetable/index.cgi>

タクシーでは、JR 逗子駅前タクシー乗り場より、湘南国際村センターまで約25分。料金約2500円。